

キリスト教文学に学ぶ

オンライン開講 (zoom)

- 第1回 (4/20) キリスト教文学とは何か (総論、30分ほど)
井上ひさし『父と暮せば』新潮社 (文庫)、1998年
- 第2回 (5/18) 遠藤周作『侍』新潮社 (文庫)、1986年
- 第3回 (6/15) 山本周五郎『柳橋物語』(『柳橋物語 むかしも今も』文庫)、新潮社、1964年
- 第4回 (7/20) 芥川龍之介『奉教人の死』『南京の基督』
「芥川龍之介全集2、3」、筑摩書房 (文庫)、1986年
- 第5回 (9/21) 近現代詩に学ぶ「山村暮鳥と八木重吉」 *講師が資料をすべて準備します
- 第6回 (10/19) 大岡昇平『野火』新潮社 (文庫)、1954年
- 第7回 (11/16) 三浦綾子『氷点』上下 角川書店 (文庫)、1982年
- 第8回 (1/18) 北條民雄『いのちの初夜』角川書店 (文庫)、1955年
- 第9回 (2/15) 柳田邦男『犠牲 わが息子・脳死の11日』文藝春秋、1995年
- 第10回 (3/15) まとめ

日時 2022年4月~2023年3月 各回 14:00~16:00

参加費 (一般) 8000円 (アカデミー/早稲田奉仕園賛助会員) 7000円 (学生) 4000円

お申込み 早稲田奉仕園ホームページ内「キリスト教講座」よりお申し込みください。

<https://www.hoshien.or.jp/program/manabiya/bible/literature.html>



講師 柴崎 聡
(しばさき さとし)

私の父は、文学的な素養を身につけていた人ではありませんでしたが、子どもたちのために『世界文学全集』(全100巻)を購入してくれていました。私は胸をときめかせながら、かなりの作品を読むことができました。その全集は、目下東京の私の家に所蔵されています。その後、私がクリスチャンになったことから、全集をキリスト教や聖書との関係で読むことが多くなりました。今回の講座では、日本のキリスト教に関わる作品を取り上げて、私なりの読み解きをお伝えしたいと思います。「キリスト教文学」と一括りにすることは必ずしも正確ではありません。そこには多様性がありますし、クリスチャンにならなかったからこそ、かえって優れた作品を創作した人々があります。それらの作者にも注目していきたいと思います。

お問合せ 公益財団法人早稲田奉仕園

東京都新宿区西早稲田 2-3-1

TEL: 03-3205-5403 Email: program@hoshien.or.jp

早稲田奉仕園プログラム

検索